

# 平成31年度 学校自己評価システムシート (埼玉県立草加西高等学校)

目指す学校像	人に優しく、自分に厳しく、社会に貢献する人間を育てる学校 ～自らの力で進路実現できる力を養う～
--------	--

達成度	A ほぼ達成 (8割以上)
	B 概ね達成 (6割以上)
	C 変化の兆し (4割以上)
	D 不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする

重点目標	1 個に応じた学力の向上と、主体的に学ぶ意欲を育成する。 2 自らの行動を律する力を身に付けるとともに、活力ある学校行事や部活動・生徒会活動を実現する。 3 生徒が望む進路を実現するために、個々の進路希望に応じたきめ細かな指導を行う。 4 地域との連携を強化し、信頼と期待に応える開かれた学校づくりを推進する。
------	--

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

出席者	学校関係者	8名
	生徒	7名
	事務局(教職員)	9名

番号	現状と課題	学 校 自 己 評 価		年度評価(1月16日現在)			
		評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<b>【現状】</b> 生徒、保護者の進路意識が向上してきており、検定試験にチャレンジする生徒も増えてきている。 <b>【課題】</b> ・家庭学習の時間を増やし、基礎学力を向上させること。 ・主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業内容の程度や進度を検討すること。 ・生徒が意欲的に学習に取り組む姿勢と、自発的に学ぶ力を育成すること。	<b>目的を持って学習に主体的、意欲的に取り組む生徒の育成</b>	①生徒の家庭学習の時間を確保するため、教科間で連携を図り推進していく。(通年) ②主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業を展開し、校内外での学び合いの機会を増やすとともに教員研修参加を推進する。(通年) ③教科と学年が連携し、資格試験の補習を充実し、資格取得を推進する。(通年)	①生徒の家庭学習時間を昨年度より増加させ、基礎学力を向上させる。 ②教員間での授業を公開し、学び合いの場を設ける。 ③外部の教育機関への研修等に参加し、その内容を校内研修会で共有する。 ④資格試験の受験者数及び合格者数を増加させる。 ⑤英検・漢検2級合格者を増やす。(昨年度比)	・全職員で授業研究に取り組み基礎学力や生徒の学習意欲の向上に努めた。 ①定期考査前に家庭学習の時間を確保する傾向にある。授業内での小テストなど、基礎学力の向上につながっている。 ②10月20日～11月29日まで授業研究月間とし、学び合いの場を設けた。分校と協力し双方の授業を参観できるように工夫した。 ③観光学科センターに3名、SDGsの研修会に2名の職員が参加し、10月31日に授業力向上研修で情報を共有した。また、総合的な探究の時間に関する研修会に2名、その他の研修会にも積極的に参加した。 ④各検定も受験者は増加傾向にある。今年度から新たに受験者数と合格者数の集計を行っている。 ⑤それぞれ2級以上の合格者は昨年度と同程度に「な」た。	B	○各教科・学年・分掌との連携を深め、生徒の家庭学習を習慣化させ、より一層の基礎学力の定着と向上を目指す。 ○授業研究を積極的に行える環境を継続していく。 ○外部の研修等に職員が参加し、学向上に研修で情報共有を深めるとともに、新学習指導要領の実施に向けて意識を高める試みを更に推進する。 ○資格取得についてより積極的な呼びかけを行い、受験者数増加を図るとともに合格に向けた支援を行う。
2	<b>【現状】</b> 日々のきめ細かな生徒指導を実施することにより、主体的・自主的に行動できる生徒は増えてきており、前向きに臨み、安定した学校生活を送れている。 <b>【課題】</b> ・教員と生徒との信頼関係を強化し、一人一人が規律ある態度を実践し、将来に向けた自主自立と必要な規範意識をより一層向上させること。 ・生徒が限定的な狭い範囲にとどまることなく自らの意思で決断し、行動できるようにすること。 ・登下校時の安全を確保すること。	<b>規範意識の向上に自ら努め、自らの意志で行動を律する力の育成</b>	①担任・教科担当・部活動顧問が連携し、遅刻指導や身だしなみ指導等をおとて、自らの意志で基本的生活習慣が身に付くよう指導する。(毎日) ②スクールカウンセラーによる教育相談を実施する。(毎月) ③校内教育相談体制を充実し、草加分校と連携した体制を実現する。(通年) ④二者面談の実施 ⑤学期毎に保護者と連携しての交通安全指導期間を設けて実施し、交通ルールやマナーを守る規範意識を高める。	①欠席数、遅刻数の減少を目指す。(昨年度比) ②精勤者、皆勤者の増加を目指す。(昨年度比) ③スクールカウンセラーと連携を図り、生徒が充実した学校生活を送れるよう支援する。 ④草加分校と協力した教育相談対応やケース会議等を実施し、情報共有の機会を設定する。 ⑤生徒との二者面談を計画的に実施する。 ⑥交通安全ルールを守り、登下校時の交通事故を無くす。(昨年度比)	・教育相談体制を充実させるとともに生徒の交通事故防止に向けて全職員で取り組んだ。 ①欠席者、遅刻者は増加した。不登校傾向の生徒が多い。 ②精勤者、皆勤者は緩やかではあるが増加傾向にある。 ③毎月1回、スクールカウンセラーと連携を図ることができた。生徒が安心して学校生活を送れるよう支援体制を検討しながら進めることができた。 ④草加分校に必要に応じてケース相談をした。 ⑤学期に1度、二者面談を計画的に実施した。また、必要に応じて二者面談を重ね、生徒の学校生活を支援した。 ⑥登下校時の接触事故が14件あった。昨年度より増加傾向にある。入院するような大きな事故は起きていない。	B	○全職員の共通理解のもと、生徒指導を実施していくことが重要なので、次年度も学年・分掌が連携してきめ細かな生徒指導を行う。 ○様々な悩みを抱える生徒がもたらせているので、全職員で生徒の学校生活を支援していくとともに教育相談体制をより充実していく。 ○交通安全を励行し、登下校中の事故に対する対応方法を生徒に身につけさせる。通学指導や巡回指導を計画的に行い、交通安全教育の推進を図る。
3	<b>【現状】</b> ・教科や各分掌との連携により、生徒の進路実現の達成率は98%を超えている。大学等への進学者も増加しつつある。 <b>【課題】</b> ・進路実現に向けてチャレンジする意欲を向上させること。 ・目標に向け最大限の準備ができる力を身につけさせること。 ・生徒の多様な進路希望への対応を今まで以上に組織的に行うこと。	<b>希望する進路に向けて意識を高め、意欲的に取り組む生徒の育成</b>	①進路指導部を中心に各学年が連携を図り、3年間を見通した進路指導を計画的に行う。(通年) ②進路指導部、教科や学年が連携して、補習・個別面談や小論文指導等の指導の他、教員向けの進路指導研修(進学指導全般)を実施する。 ③長期休業中や放課後を活用して、進学者や就職者対象の補習を計画的に実施する。(通年) ④保護者会や個別面談等を通して、進路に関する情報を的確に提供し、質の高い進路指導を継続実施する。	①進路指導主事による進路講話や進路指導研修等を実施する。 ②生徒が希望する進路の決定(100%)を目指す。 ③高大接続に対応した指導を実践する。 ④教員向けの進路研修会を実施する。 ⑤補習を計画的に実施する。 ⑥大学等が実施する進路説明会へ教員を派遣し、常に新しい情報を把握し、生徒面談等に還元する。 ⑦保護者へ情報提供をする。	・生徒の主体的な進路活動を全職員が支援することにより、キャリア教育の視点を取り入れた指導を始めた。 ①進路指導主事による講話10回、総合的な探究の時間を活用して年間を見通した指導を行った。 ②生徒の多様な進路希望に応じた指導を徹底し、決定率91.6%(2月末日現在)になった。 ③1,2年生を中心に高大接続に対応した指導を実施した。 ④2学年保護者に対して10月18日(金)に高大接続に係る進路説明会を実施した。 ⑤6月20日に進路に関する職員研修を外部講師を招いて実施し、6月26日に専門学校の職員向け研修会をした。 ⑥考査前や長期休業中に計画的に実施した。 ⑦大学主催の進路説明会に職員を派遣した。新しい情報を共有しながら生徒の進路実現に向けて役立った。 ⑧保護者会やPTA理事会等でも進路に関する情報を提供した。	A	○入学当初の1年生に対する進路指導主事の講話を次年度以降も継続する。 ○高大接続改革に関する入試の変更事項に対応するため、新しい情報を適宜、提供していく。 ○希望校への一般受験に対応する学力を養う指導の実施を検討する。 ○新教育課程編成に向けて次年度も継続して研究する。 ○e-ポートフォリオやルーブリックの研究を継続する。 ○積極的に外部説明会等への教員参加を進める。
4	<b>【現状】</b> ・積極的な情報発信と施設開放、地域ボランティア等の参加協力で開かれた学校づくりを推進している。 ・学校行事や授業公開への保護者の参加数は年々増加している。 ・草加ががきや特別支援学校草加分校との交流は良好である。 <b>【課題】</b> ・地域の小・中学校との交流を継続して実施するとともに定着化させること。 ・PTA活動への保護者理解と参加者を拡大すること。 ・分校との相互理解を推進するための新たな交流を検討、実施すること。	<b>地域住民をはじめ、様々な人との交流を通じて思いやりの心とコミュニケーション能力を持った生徒の育成</b>	①地域住民や小・中学校等との連携を図り、地域の高校としての認知度を高める。 ②ホームページを効果的に活用し、生徒の活動を積極的に掲載する。(通年) ③PTA・後援会理事会を中心として、保護者間の連絡や連携を強化し、活動の理解と各種行事等に参加しやすい環境を整える。 ④草加分校と連携し、日々の連絡を共有する体制を構築する。また、各種行事の共同開催や放課後の部活動を合同で行う。(通年)	①学校説明会への参加者を700名程度にする。(昨年度705名) ②ホームページを積極的に更新する。(昨年度比) ③地域ボランティア活動への参加部活と生徒数を増加させる。 ④保護者の授業公開やPTA活動、各種行事等への参加数を増加させ、学校への関心を高める。 ⑤合同での行事を実施する。 ⑥日常での相互交流を図る。	・情報発信を積極的にに行うとともに、地域や近隣中学校及び保護者、草加分校との連携を深めることができた。 ①第3回までの参加人数約560名。昨年度より減少したが第32年度からは増加(437名)している。 ①ホームページのトップページ及び校長室の更新回数200回(2月)。その他、部活動のページを随時更新し、生徒の学校生活の様子を含め、広く市民に公開した。 ②地域のイベント等へ延べ生徒225名、職員13名を派遣した。 ②体育祭に保護者が393名が参加した。(昨年度比+28名)。また、文化祭には480名の保護者が参加していることにより、学校への関心の高まりを感じている。また、文化祭には地域住民の方が36名来校しており、地域からの関心も高まっている。 ③体育祭、文化祭、ローレブス大会等、多くの学校行事を合同で実施した。特にロードレース大会に向けた体育の授業では、分転生と一緒に授業を行っている。 ④埼玉・教育ふれあい賞を受賞した。 ⑤日常の交流を充実させるため、共生推進委員会を中心に緑化交流事業や分校授業体験等を実施した。	A	○地域で生徒が活躍する場を作ることができた。次年度以降も積極的に場を増やしていきたい。 ○中学校への出前授業や小学生とのスポーツ交流など、働き方改革の観点から見直し、より充実した内容にしたい。 ○学校HPを活用し、学校の教育活動への取組を積極的に発信し、地域の理解や協力を推進する。 ○部活動を通じた草加分校との新たな交流活動を実施することができた。次年度以降も継続していく。

学校関係者評価	実施日	令和2年2月10日
学校関係者からの意見・要望・評価等	○全般的にしっかりした指導を行っている。 ○家庭学習を定着させるための工夫や取組を学校で検討していく。 ○資格取得を推進するとともに合格に向けた補習や家庭学習を次年度も行ってほしい。 ○外部の研修会等に積極的に参加して、学校の授業改善に役立てて欲しい。特に、研修会での内容をもっと教員間で共有して、学校全体で授業に還元していくことが必要。 ○SDGsの考え方は重要なので、学校でも取り扱ってほしい。	
○1つありした指導を行っており、生徒も落ち着いて学校生活に臨んでいる。今後生徒が安心して学校生活を構築してほしい。 ○不登校傾向の生徒が多いが、遅刻が多いクラスはクラス全体が同様の傾向になっている。個人を指導するときにクラスでの指導、学年全体での指導が必要。数を減少させるための指導をしてほしい。 ○交通安全防止に向けた指導を徹底し、ゼロを目指してほしい。そのために、日ごろからの登下校指導を継続してほしい。 ○校章の導入を検討したらどうか。		
○生徒会や各部活動が活発に活動し、学校全体に活気をもたらしている。 ○部活動の良い成果や頑張った経験は生徒の自己肯定感にもつながることで継続して生徒の活動を支援してほしい。 ○新しい取組である部活動がポーター制度を導入して、生徒の部活動をさらに活性化できたらとても良い。 ○生徒に学校行事等もつと活躍の場を与え、先生方が指示を出すに見守り体制を構築し、生徒のリーダー性を育ててほしい。		
○入学当初の1年生に対する進路指導主事の講話を次年度以降も継続する。 ○高大接続改革に関する入試の変更事項に対応するため、新しい情報を適宜、提供していく。 ○希望校への一般受験に対応する学力を養う指導の実施を検討する。 ○新教育課程編成に向けて次年度も継続して研究する。 ○e-ポートフォリオやルーブリックの研究を継続する。 ○積極的に外部説明会等への教員参加を進める。		
○地域で生徒が活躍する場を作るとともに、生徒の活動を支援してほしい。 ○小中学校との連携を進め、地域に根差した学校を目指してほしい。 ○ホームページのリニューアルがされて以前より見やすくなったし、昨年より更新回数が増えた。学校ホームページを積極的に更新し、情報発信をしてほしい。その際、生徒の学校での様子も多岐にわたってほしい。 ○草加ががきや特別支援学校草加分校との交流事業を行い、インクルーシブ教育を実現してほしい。学校行事だけでなく、部活動や新たな活動を考察してほしい。また、生徒だけでなく、教員の交流も行いたい。		